



第3回観光政策フォーラム 開催報告





2018年2月7日（水）に、これまで取りまとめてきた「観光立国実現に向けた提言」や「サービス連合の重点政策」を社会に幅広く発信することを目的に、「第3回観光政策フォーラム」を開催しました。会場である帝国ホテルには、国会議員・行政官庁・企業・教育関係・業界団体・労働組合などから約200名の参加者が集い、定員どおりの盛況な会場となりました。

フォーラムの構成は「基調講演」、「トークセッション」の2部制とし、特に「トークセッション」については「産」「官」「学」それぞれの立場のパネリストが連携・補完・影響し合えるような運営を心がけました。

講演内容について、第1部では、慶應義塾大学大学院教授、元経済財政政策担当大臣補佐官の岸博幸氏をお迎えし、「2020年以降の日本経済とサービス・ツーリズム産業のあるべき姿」に関する基調講演をいただきました。このなかで観光業については、生産性の伸びしろが十分にあり、その向上のためにはイノベーションに果敢に取り組むべきであること、また、広域連携により持続可能な発展モデルを構築すべきであること等、示唆に富んだお話をいただきました。

第2部では、「学」代表としての岸氏のほか、「産」代表として株式会社トラストバンク代表取締役の須永珠代氏、「官」代表として観光庁観光産業課参事官の黒須卓氏による、トークセッションを行いました。テーマは、「サービス・ツーリズム産業が発展していくために取り組むべきこと～2020年に向けた、産・官・学それぞれの取り組みと連携について～」とし、各立場で取り組んできた事例の紹介や私たちの産業において今後必要となる取り組みについて幅広い提言をいただきました。このなかで労働組合の役割については「多様性を尊重すること」、「組織の殻を破り、幅広い視野をもつこと」、「はたらく現場の空気感（雰囲気）を高めること」といったアドバイスがありました。

サービス連合は、観光立国の実現と21世紀にふさわしい観光産業の発展を目指し、「観光立国実現に向けた提言」を組織外に幅広く発信するとともに、観光政策の実現にむけた取り組みをこれからも強化していきます。

